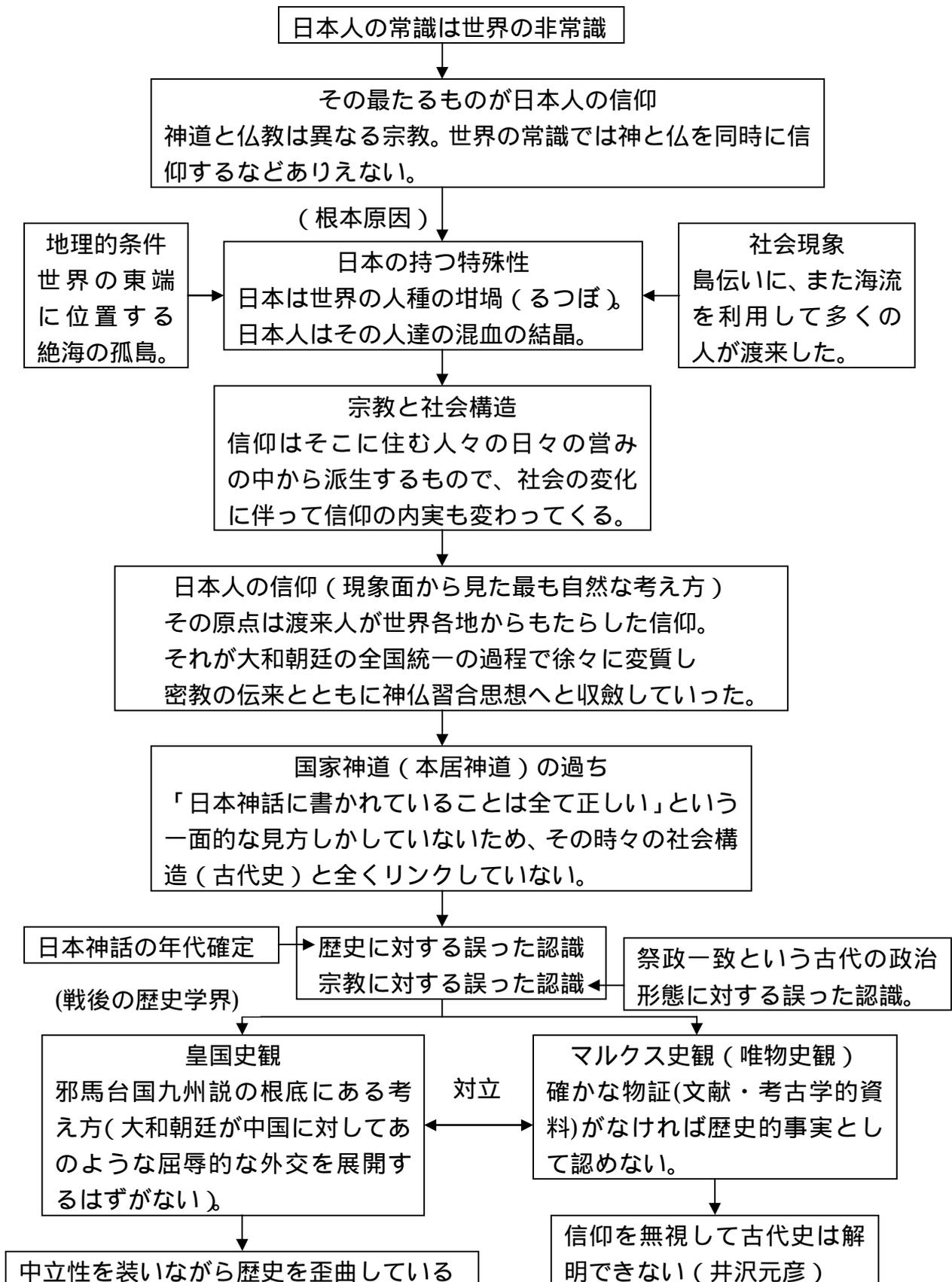
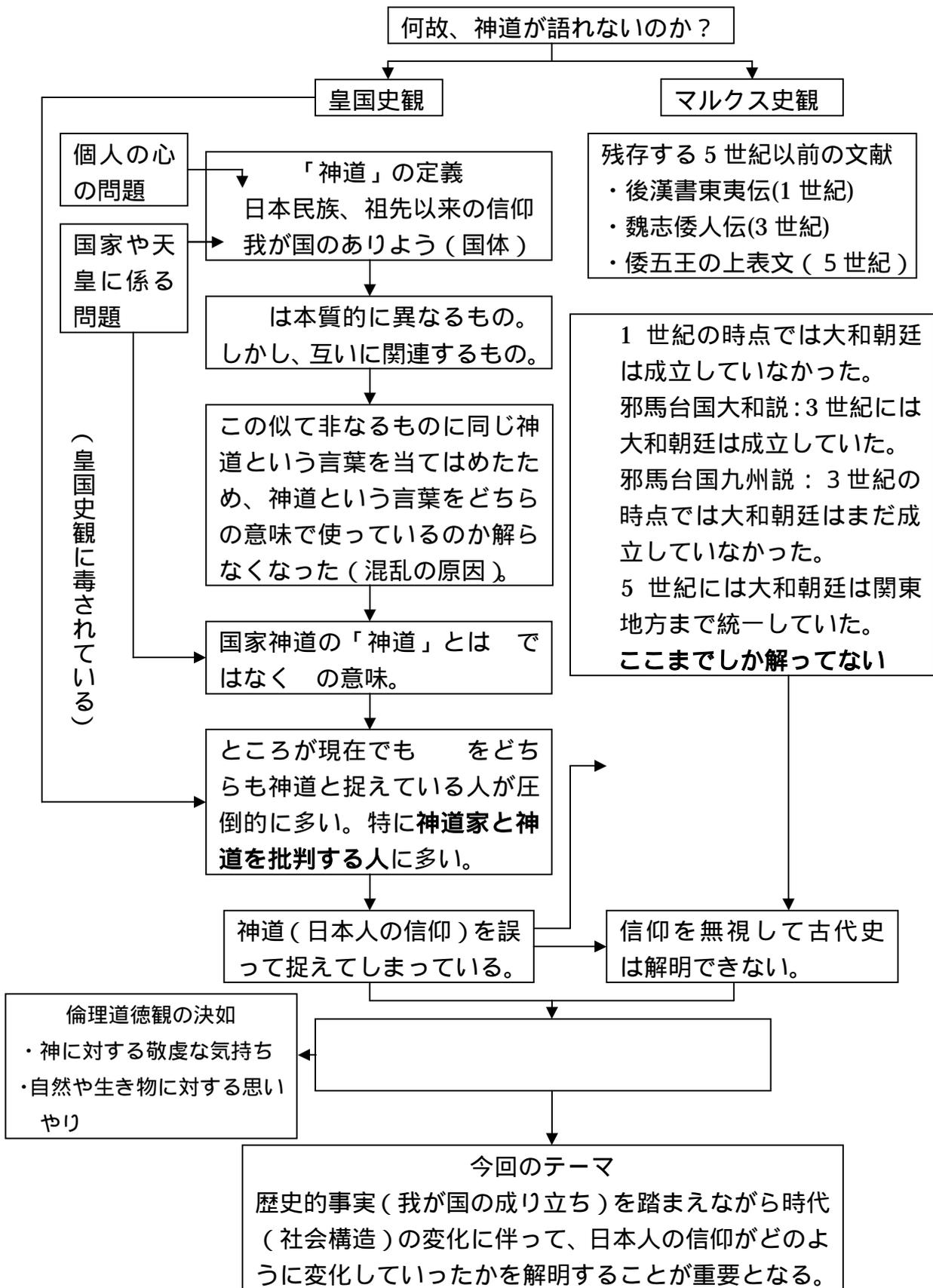


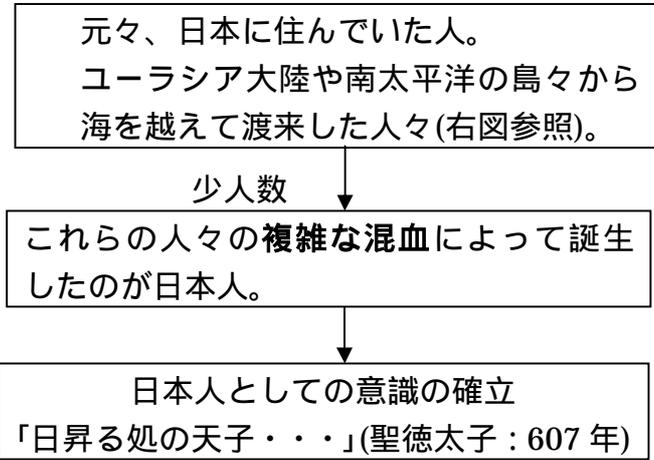
(1) はじめに





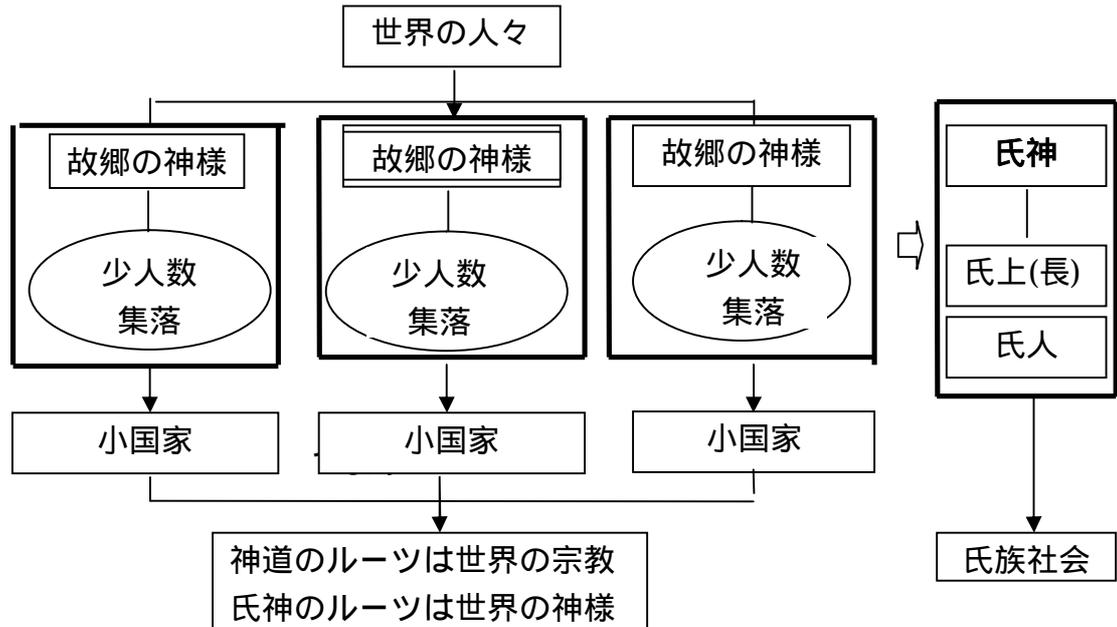
(2) 我が国の成り立ち

日本人のルーツ

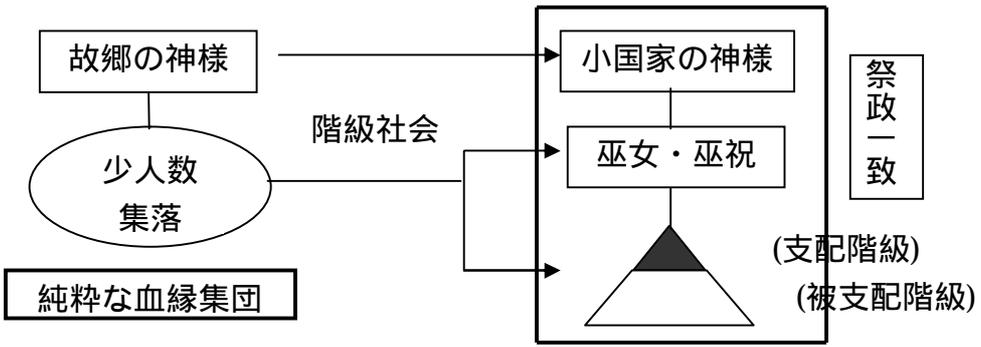


複写(白い地図工房)

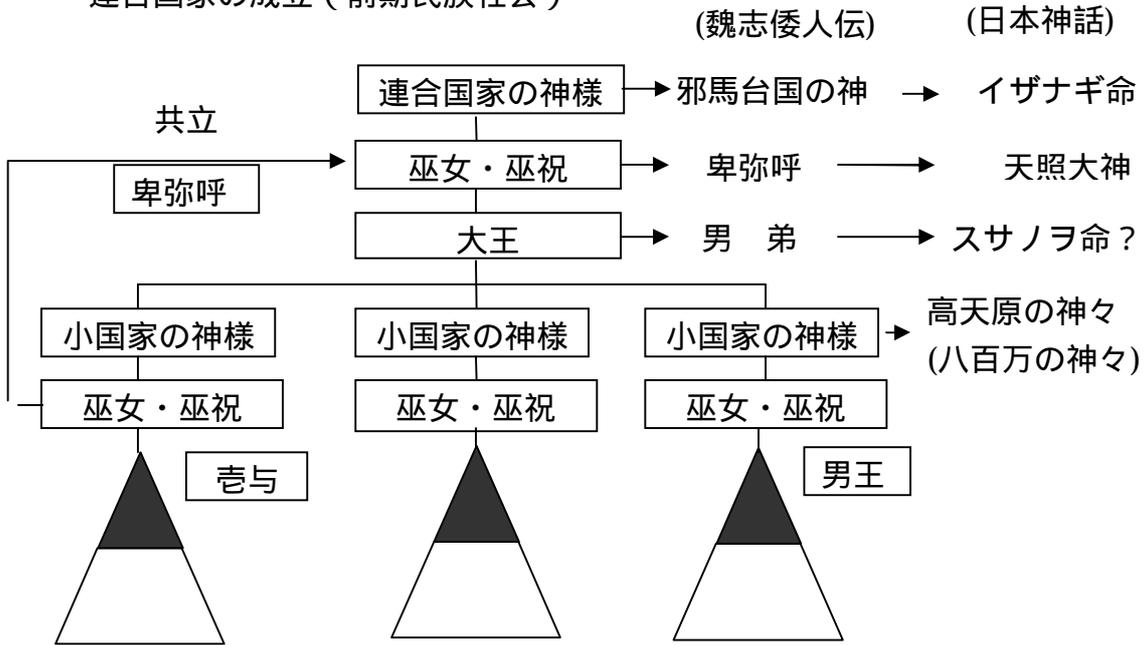
小国家の成立



(社会構造の変化)



連合国家の成立（前期氏族社会）



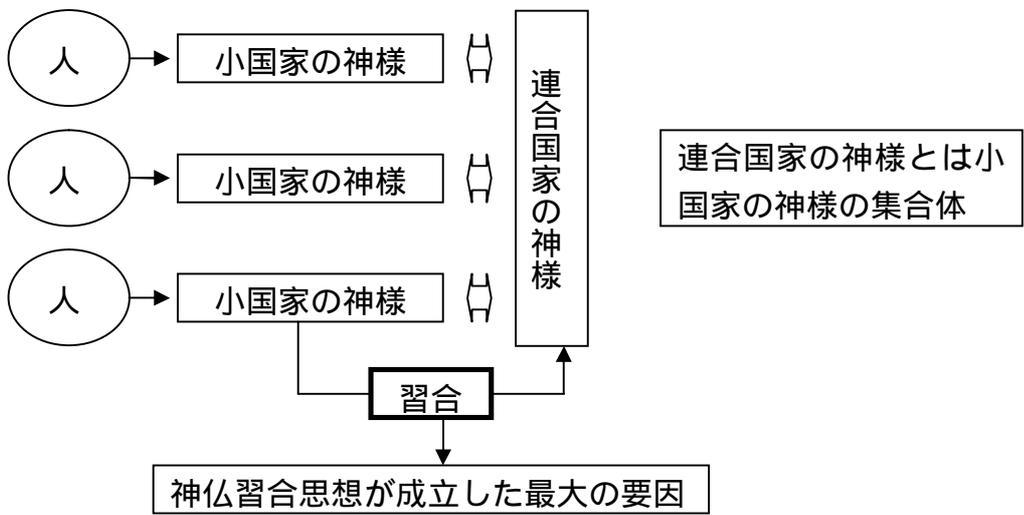
（連合国家成立の要因）  
稲作・混血による文化の共有化

労働集約産業  
産業を支えていくためには  
多くの人口を必要とする。

血液の開放

文化の共有化  
日本人の特技(和魂洋才)  
外国の文化を取り込んで自らの  
文化と器用に融合させる。

（連合国家における信仰の構造）

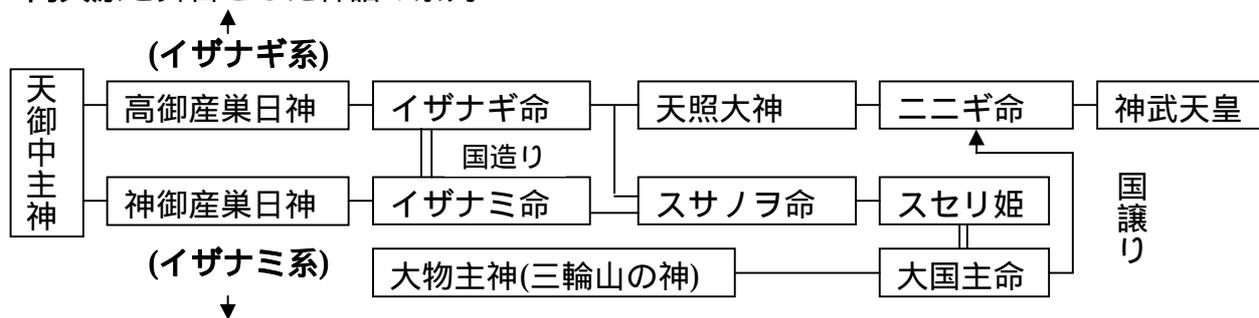


大和朝廷の全国統一の過程（中期氏族社会）

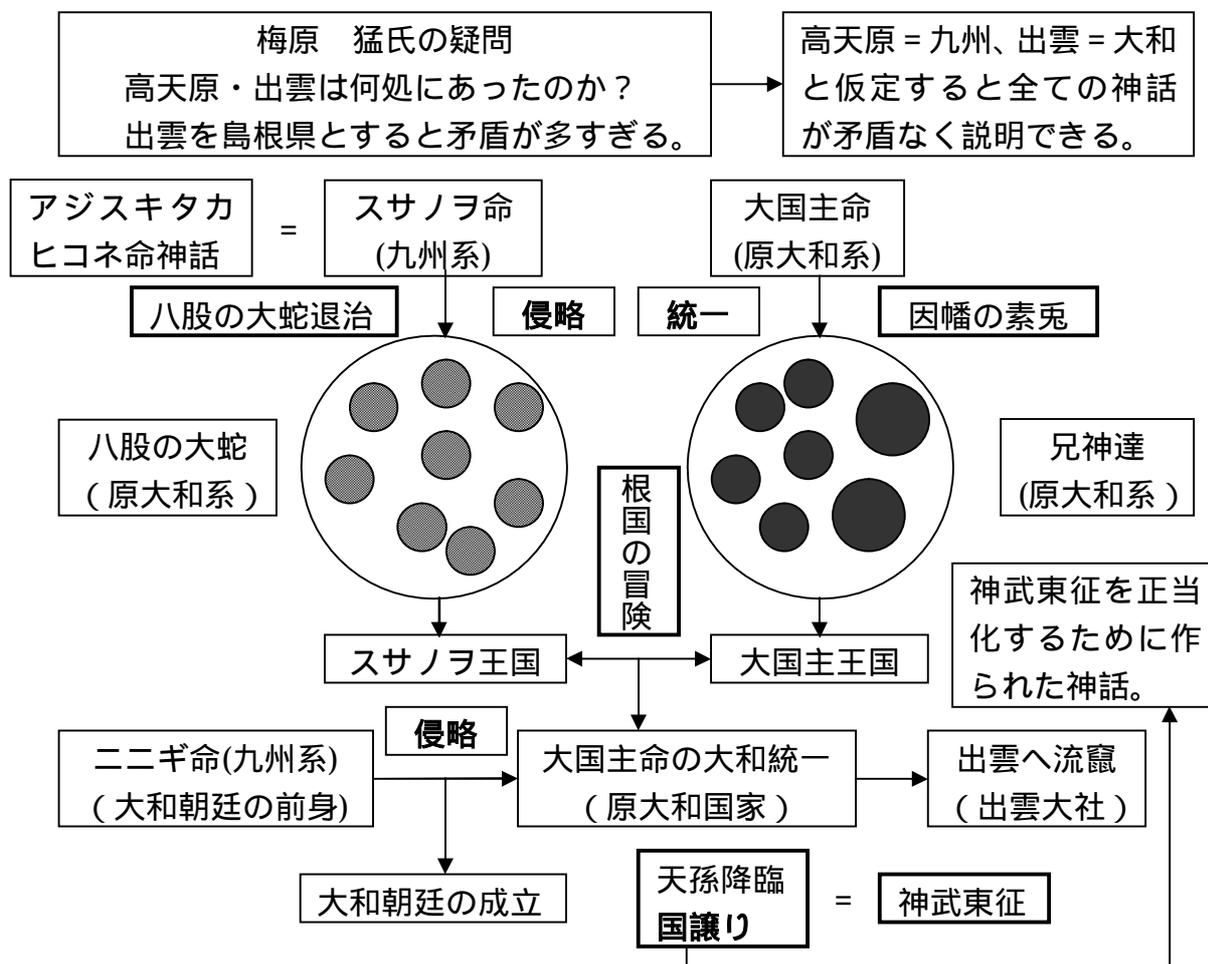
日本神話第三部

神話名	勝者	敗者	女性名	女性の素性
八股の大蛇退治	スサノオ命	八股の大蛇	クシナダ姫	地元女性
因幡の素戔	大国主命	兄神達	ヤカミ姫	地元女性
根国での冒険	大国主命	スサノオ命	スセリ姫	スサノオの娘
国譲り + 天孫降臨	ニニギ命	大国主命	コノハナサクヤ姫	地元女性
海幸・山幸	山幸彦	海幸彦	トヨタマ姫	海王の娘

高天原を舞台とした神話の系列



出雲を舞台とした神話の系列



### 日本武尊（やまとたけるのみこと）神話

海幸彦は隼人族（鹿児島県）の祖で、神武東征伐以前に大和朝廷に制圧されていた。

#### 日本武尊

- ・ 12代景行天皇の次男。父の命令で全国統一を実施した。
- ・ 熊襲建（くまそたける：熊本県） 出雲建（いずもたける：島根県）
- ・ 東国の12か国 伊勢，尾張，三河，遠江，駿河（草薙の剣），甲斐，伊豆，相模，武蔵，総（オトタチバナヒメの入水），常陸，陸奥
- ・ 帰途、信濃、美濃、近江（死亡・白鳥伝説）

「倭（やまと）は国のまほろば たたなずく青垣 倭しうるわし」

#### まとめ

- ・ 出雲が大和朝廷によって平定されたのは神武東征以降。
- ・ 日本武尊の治績が歴史的に実証できるのは21代雄略天皇の治世(480年前後) 倭の五王の上表文（宋書・梁書東夷伝）・稲荷山古墳（埼玉県）出土鉄剣
- ・ 考古学的にいう4大文化圏（大和・吉備・出雲・北九州）のうち、出雲は最後に大和朝廷に従った地域。
- ・ ちなみに、奥羽地方平定は802年、肝沢城築城から（坂上田村麻呂）

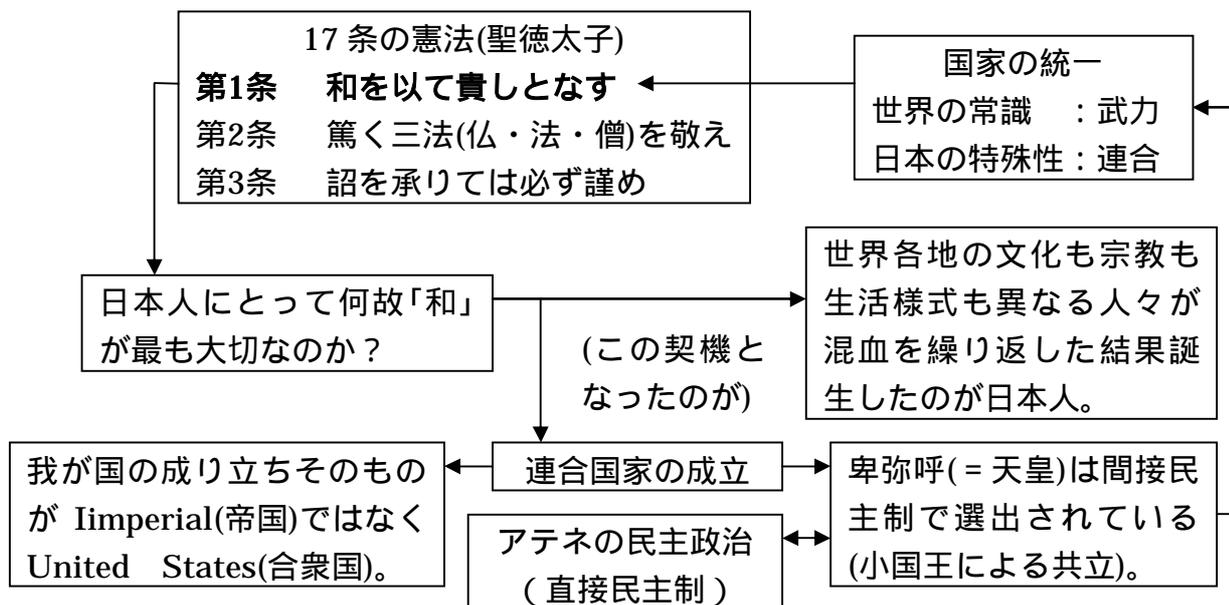


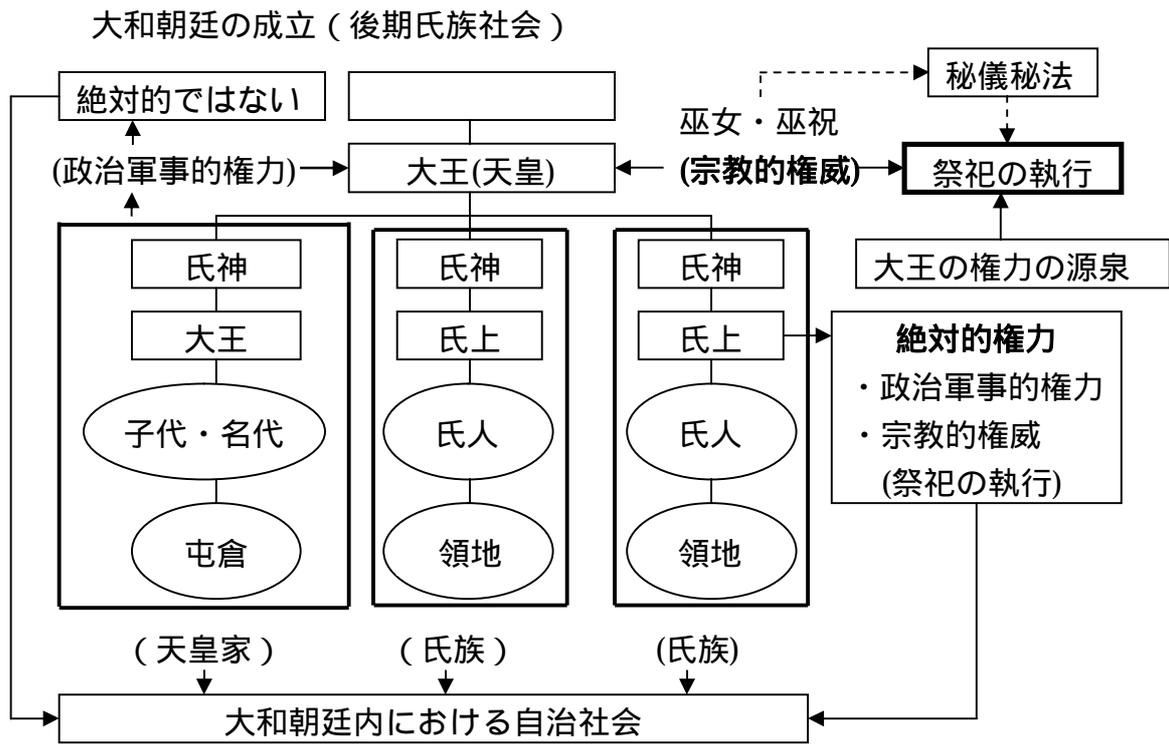
日本神話でいう出雲とは現在の島根県を指しているのではない。



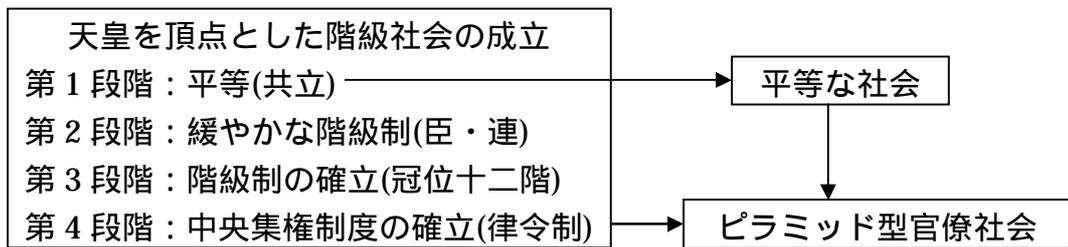
とすると、出雲とは神武東征以前の大和地方を指しているとしたか考えられない。

### 我が国が日本人がどのようにして成り立ったか（結論）

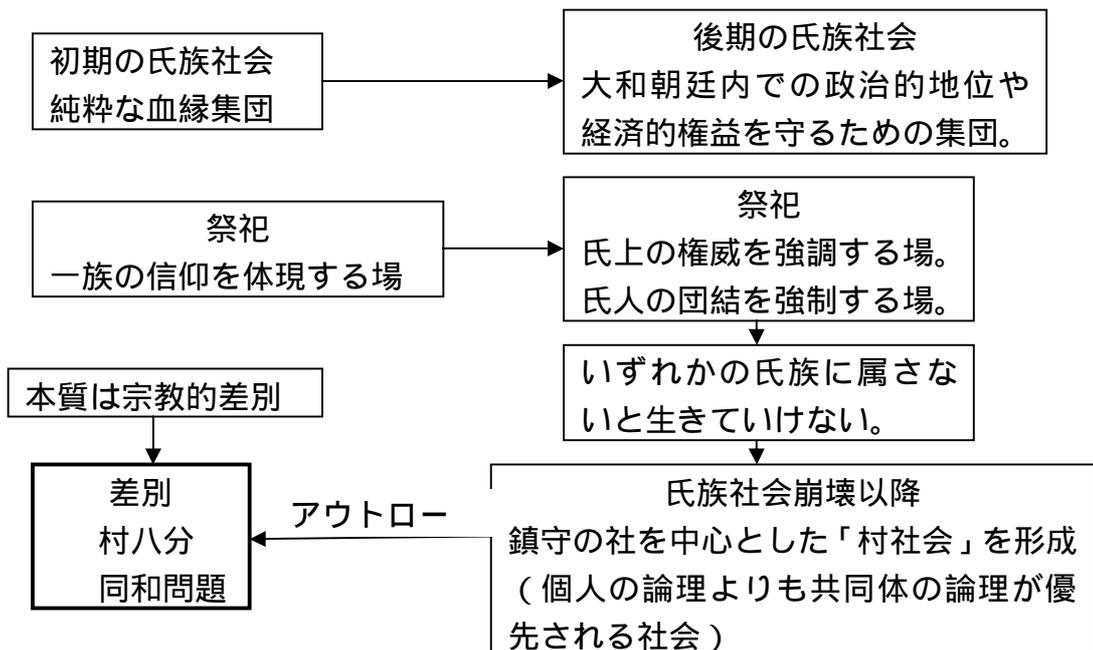




移行 ⇩



(氏族社会の変遷)



## 律令国家の成立（氏族社会の崩壊）

### 律令制度とは？

#### （概要）

古代東アジアで見られた中央集権的な統治制度。律(刑法) 令(行政法)。

#### （基本理念）

王（皇帝）が全ての土地と人民を支配する。

#### （制度の構成）

人民へ一律的に耕作地を与える土地制度

個人を課税対象とする租税制度

人民に一律的に兵役を課す軍事制度（徴兵制）

人民を把握するための地方行政制度（戸籍）

上記 ~ を実行するための官僚制度。



### 律令制度導入の目的

氏族社会を崩壊させ、天皇中心の中央集権国家を作るため。



### 我が国の律令制度の特徴

唐（中国）の律令制度を我が国の実態に合わせてアレンジしているが、ほとんどは唐の制度をそのまま導入したと考えてよい。

我が国の律令制度が唐の制度と異なるのは以下の三点。

- ・ 天皇に対する地位規定がない。
- ・ 太政官と並立して神祇官が設置されている。
- ・ 高級官僚採用試験である「科挙」が取り込まれていない。

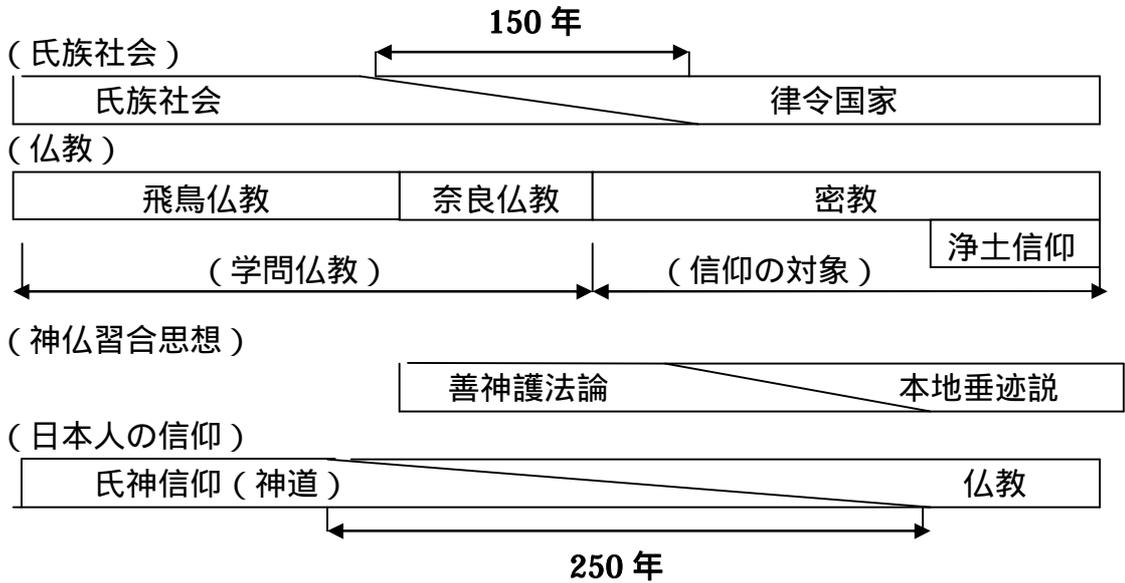
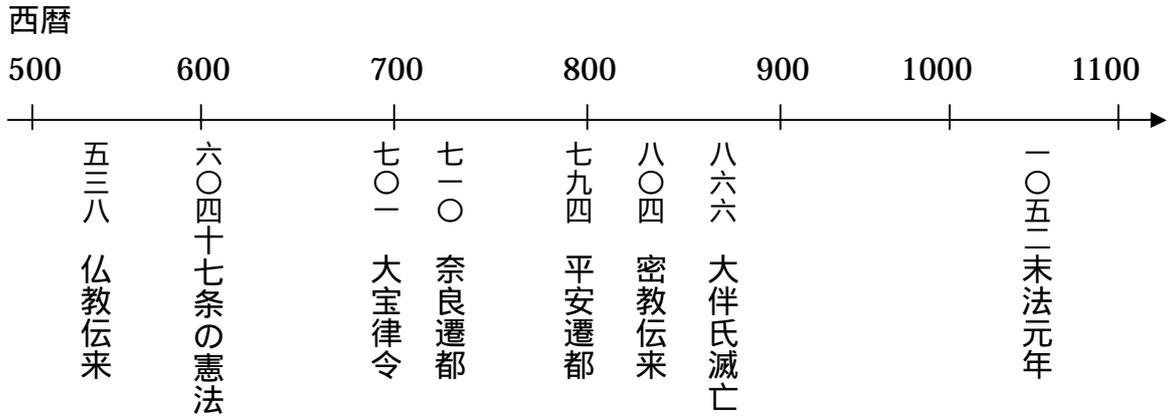


唐は太政官に相当する役所（中書省・門下省・尚書省）のみ。祭祀を司る役所はその下部組織。

### その理由

項目	理由
天皇の地位	天皇の地位は万世一系
神祇官の並立	氏上から祭祀の執行権を取り上げ国家の祭祀として再編成（祭祀が氏上の権威を示し、氏人の団結を強調する場に変質しており、これが逆に閉鎖的氏族社会を強固にしていた）
科挙の不採用	氏上を中央や地方の官僚とすることで、氏族内の政治的・経済的権益を取り上げようとしたため必要なかった。

(氏族社会の崩壊と密教の伝来)



この間、神道と仏教の間に論争や抗争は全くなかった。一方、奈良仏教と平安仏教(比叡山)の間では度々激しい論争が繰り返されており、最澄は人生の大半をこの論争に費やしたといわれている。

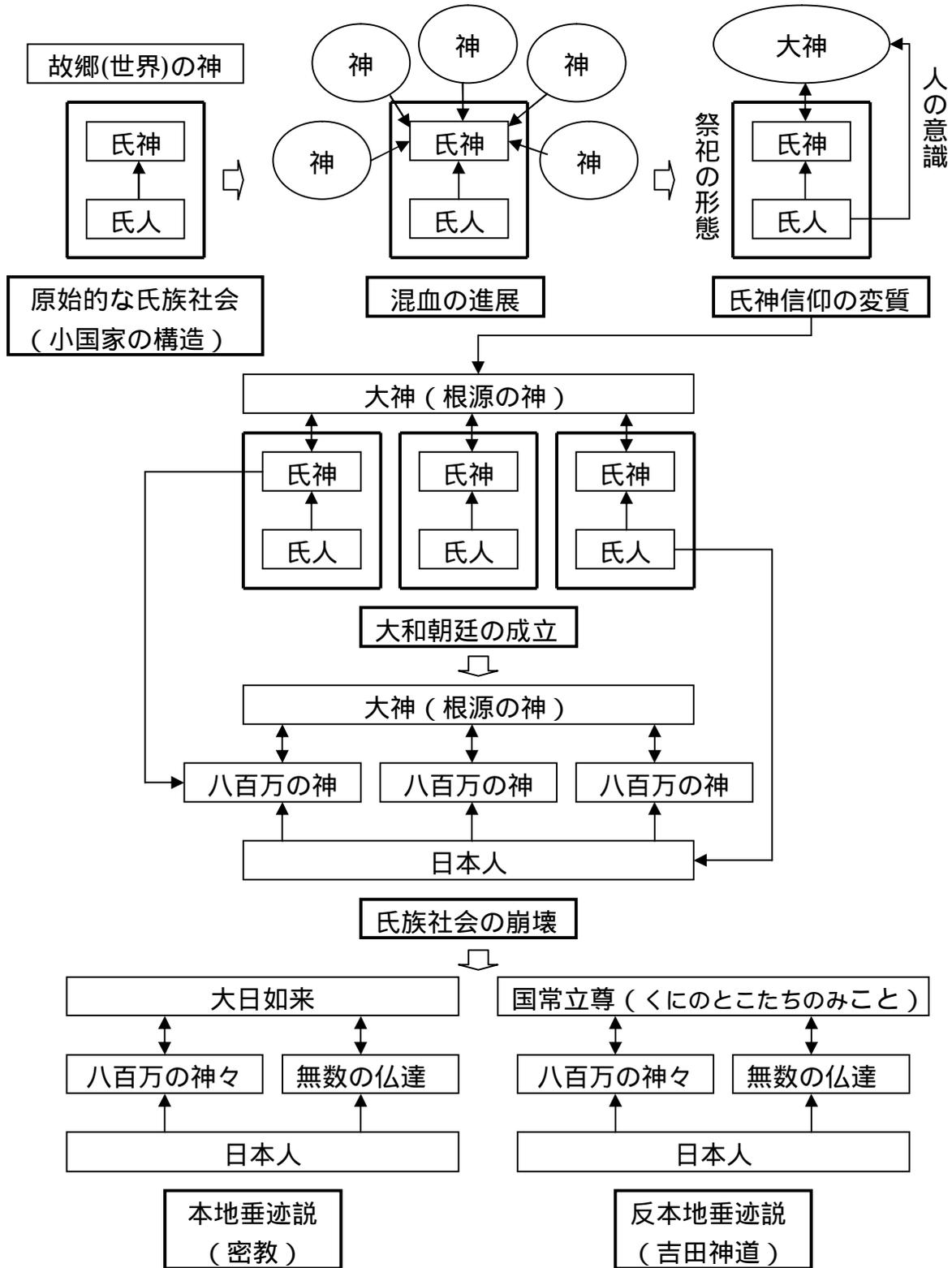
神仏習合思想の本質 ← これは日本人が神道信仰から仏教信仰へと改宗したのではなく、氏族社会の崩壊の過程で氏神信仰が徐々に密教信仰(本地垂迹説)へと変質していったことを示している。

現在言われているように、神道と密教が異質の宗教であるのなら、神仏習合思想など成立するはずがない。

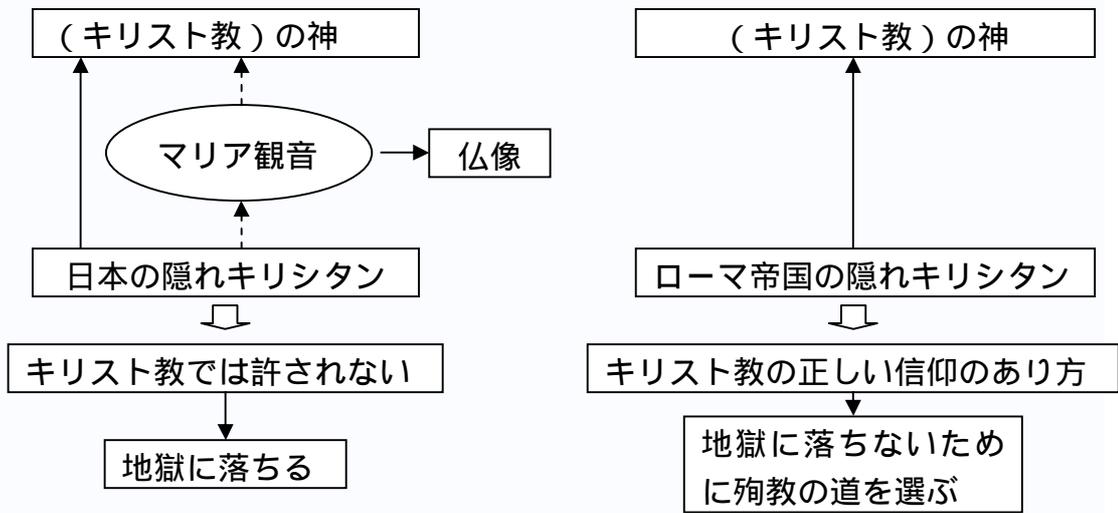
つまり、末期の氏神信仰は密教信仰とほとんど変わらない信仰だったと考えられる。

だから、神仏習合思想が成立した。

(3) 日本人の信仰の変遷



(4) 隠れキリシタンの信仰形態



モーゼの十戒(神との契約)違反

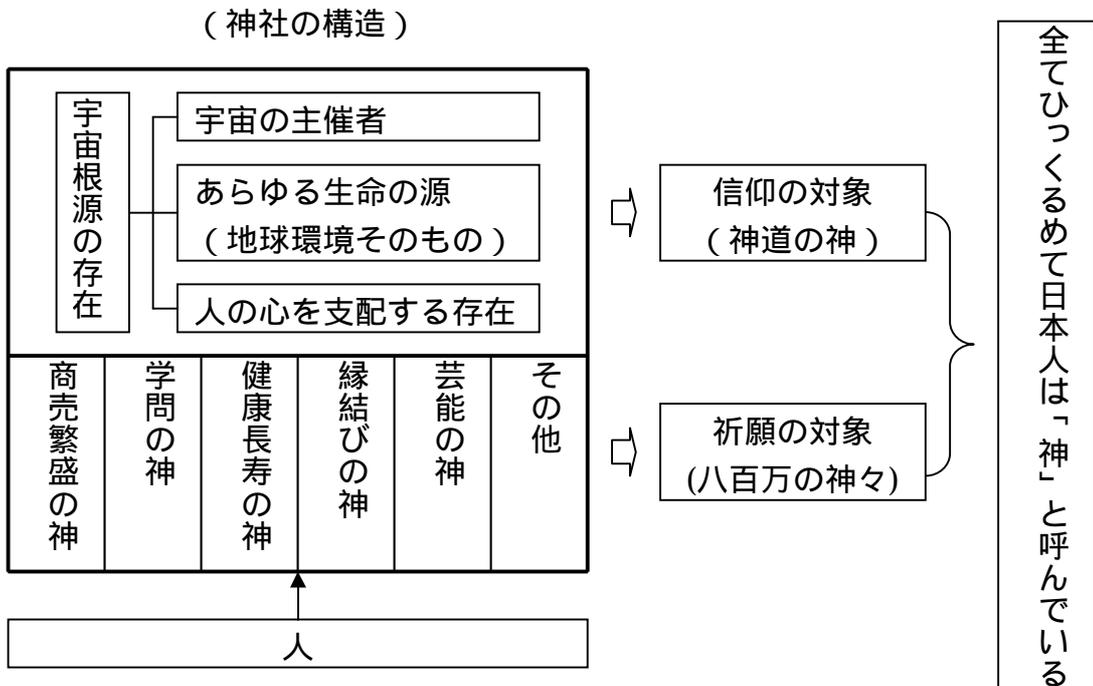
ヤハウェが唯一の神であること 偶像を作ってはならない(偶像崇拜の禁止)

神の名をいたずらに取り上げてはならない 安息日を守ること

父母を敬うこと 人を殺してはならない 姦淫をしてはならない

盗んではいけない 偽証してはいけない 隣人の家をむさぼってはいけない

(5) 神道の神とは？



# 神道講座テキスト (第5回)

---

平成18年7月2日(日)

新熊野神社